

森を見て木を見れず ～安全な生活を目指して～



特別養護老人ホーム
三幸の園

介護職 堀 芳彰
介護職 相曾 庸好

施設紹介



特別養護老人ホーム三幸の園 定員110名
短期入所施設三幸の園 定員20名
三幸の園デイサービスセンター 一般型30名
認知症型9名
三幸の園ホームヘルプステーション
訪問看護ステーション大平台
三幸の園指定居宅介護支援事業所
地域包括支援センター大平台

取り組みの背景

見守りの強化

転倒

パニック



「森を見て木を見れず」とは・・・。

「森」とは・・・フロア全体
「木」とは・・・利用者様個人

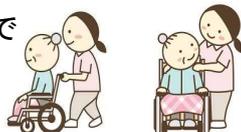
職員配置
の検討

タブレット
の活用

自動ブレーキが
掛かる車椅子
の使用

職員配置の見直し

- ・日勤帯に職員を1名 **増員**
- ・コール担当と見守り担当を **分担**
- ・必ず職員一名がフロアで利用者様の見守り



タブレットの活用

- ・タブレットを2台導入
- ・フロアで見守りをしながら介護記録の入力



自動でブレーキのかかる車椅子の使用

- ・立ち上がるとブレーキが掛かる車椅子を3台導入
- ・3名の利用者様に使用し安全に生活できるか観察



実施後会議を開催

- ・実施後アンケートを基にフロー会議で評価。
- 会議の評価を基に実施内容を改善し再実施。
- ・再実施後も会議を開き、評価、反省。

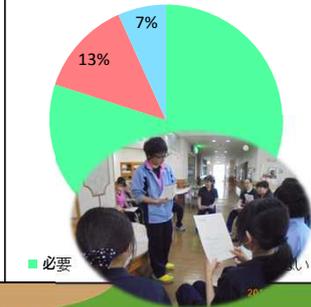


職員配置の見直し(1回目)

図1: Q.見守り不足と感じるか



図2: Q.見守り担当は必要か



職員配置の見直し(1回目)

～反対意見～

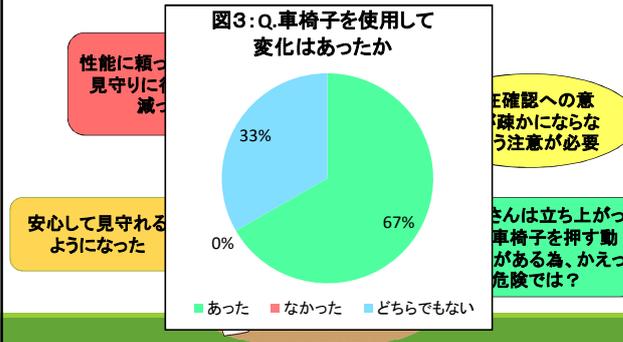
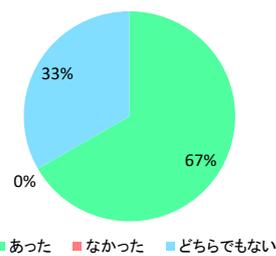


タブレットの活用(1回目)



自動でブレーキが掛かる車椅子の使用 (2回目)

図3: Q.車椅子を使用して変化はあったか



実施内容の変更

反省点

改善点

見守り担当職員の負担大	⇒	時間毎に見守り担当の交替
集中する業務を行う時の見守り不足	⇒	集中する業務は他の職員がフロアーにいる時に行う
全職員で見守り	⇒	フロアーを離れる時は声かけし離れる
タブレット操作の理解不足	⇒	タブレット操作の勉強会を実施
性能に頼って所在確認が疎かになる	⇒	所在確認の徹底

職員配置の見直し(2回目)

見守りを任せっきりになっていることがまだある

レクリエーションに参加しない利用者様の見守りが不十分

2人なら対応することができた

協力して見守りやその他の業務を行えた

見守りということを意識するようになったと思う

タブレットの活用(2回目)

～賛成意見～

図4:Q.勉強会実施前
タブレットを使用しているか

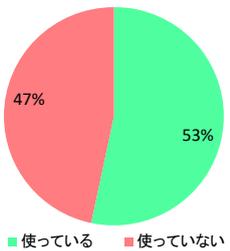
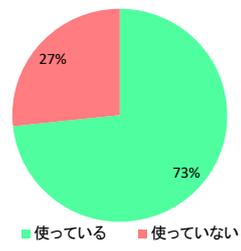


図5:Q.勉強会実施後
タブレットを使用しているか



自動でブレーキが掛かる車椅子の使用(2回目)

ブレーキが掛かる車椅子を使用している利用者の見守り、所在確認の徹底を行い安全に生活できるか観察。

→安全に過ごされている。引き続き経過観察

- D様 トイレ、臥床の訴えが多く自分で向かってしまう
- Eさん 自身でトイレに行かれ職員が気づかない
ブレーキの掛け忘れが見られる為
- Fさん
- Gさん ブレーキの掛け忘れが見られる
職員の介助を嫌がる為

購入を検討

反省と今後の課題

全体(森)の見守りだけではなく
個々(木)のニーズを把握し
その人らしい安全な生活の
提供を目指す!!

注意が必要な利用
守り、所在確認の

のコミュニケーション
連携の強化

ご静聴ありがとうございました。



～利用者様と一緒に作成した壁画～